

全道展機関紙 "ZEN" 創刊号 昭和53年12月20日発行
 発行所 全道美術協会 事務局 札幌市西区発寒4条5丁目434-8
 竹内 豊方 T 011 (851) 9141 内 232 (夜間・休日) 661-0673

ZEN

全道展機関紙

NO. 1



第34回

全道展にむけて

60号以下を必ず1点つけて
搬入ということ

また新しい年を迎えた。ひとは夫々、今年はがんばるぞ、などと年のはじめに考えるものである。元旦という日は、たつた一晩寝ただけなのに、きのうとまるで違う。樟脳くさい着物を着せられて、おめでとうと言葉をかわした子供の時の、あの何となく新鮮で晴ればかりであった思いだが、そのまま今に続いている。元旦を生活の一つの節目としてきた日本人の慣習のためだろう。そして、誰もが今年はがんばるぞ、何となくいい仕事が出来そうだと自分に言いきかせる。しかし全道展について考えると、第三十三回展が開かれたとたんに、次の年が始っていわけである。だから全道展に出品している作家は、生活の節目と関係なく、展覧会が制作活動としての元旦になるわけだ。

公募展の作品がやたら大きくなつたことに、昭和二十年代は出品作も八号、十号から、五六十号の作品が主で、一〇〇号は眼を見た大作であった。勿論物資のない時代であつたから当然としても、それがどうして一〇〇号が普通になつたのだろう。作家がより大きな画面に挑戦しようとする意欲をもつことは不思議ではないし、又それを見る立場でも、その努力を評価したくなるのも当然といえるだろう。だから一五〇、二〇〇号という大きな絵を描く人もいるわけだ。

これは、展覧会全体の作品を小さくしていくという意味ではなく、惜しまれて落選しないだろう。しかし第三十四回展から出品作の中に六十号以下の作品を一点加えることによる。

全道美術協会は今まで全道展の出品作品の大さきを制限しなかつた。これからも制限しないだろう。しかし第三十四回展から出品作の中に六十号以下の作品を一点加えることによる。

金道展は今まで全道展の出品作品の大さきを制限しなかつた。これからも制限しないだろう。しかし第三十四回展から出品作の中に六十号以下の作品を一点加えることによる。

これは、金道展が終つてもう半年がたつた。あの時の意気込みも大分うすれた人も居るかもしれない。新年という生活の節目には、さあ今年もやるぞと、先ず制作始めに五十号の作品に取りくんで見ないか。思いのほか、新しい発見があるかも知れない。

(本田明二)

隨想

あ の 頃

大谷 久子



カット筆者「女たち」



ここ2、3年岸葉子さんと行動を共にする機会が多い。と言うのは私の友人宅でのフランス語のレッスンに2人が参加しているからで、この年になって語学をやっても箭で水を掬う様なものであろうが、十年も掬えばコップに半分位はたまるのではなかろうか等と気楽に考え、わりと熱心にやっている次第だが、終つての雑談に2人共通の話題として全道展のことが多く、去年の道立美術館での陳列のこととか、この頃では会員でも知らない人の方が多くなつたとか、又「あの頃の大谷さんは私より10年も年上と思つていていたわ」「あの頃の貴女と私は人生のキャリアがあがうもの、私は結婚をし、子供を生み、未亡人にまでなつてたのに貴女はまだ独身だったでしよう」。

先日札幌で本田明二さんに会つた時も「あの頃の大谷さんは黄八丈の着物なんか着ちやつて、髪は頭のてっぺんにあげてさ、そして凄い声出してたな、僕なんか引揚げて來たばかりで兵隊服にドタ靴はいていたから話しきるのも気がひけたよ」などと飲みながらの冗談は毎度のことだが、あの頃とは全道展が始まられてから間もなくの頃で、私は第2回展——昭和21年11月——から出品して知事賞を受け会友に推薦された。其の年会員にならるのは鈴木伝さんと小島真佐吉さんのお2人で33年間の移り変わりの激しさを思わせる。

そんなことから一寸氣になつて全道展小史を読んでみた。昭和20年12月全道美術協会結成当时会員22名（うち女性2名）33回展昭和53年の今年、会員120名（うち女性20名）わざわざ女性のバーセンティジを出したのは先日ZENの編集者から女流の活躍めざましかつたあの頃のことを書いてみないかの話しが頭にあつたからであろう。

創立当時の約1/10に較べたら今日の1/6は確かにバーセンティジは上つてゐるが毎回の受賞者、会員会友の推薦、推挙をみても33回中、女性の名前のなかつたのは4回だけで何時も女性の活躍はめざましいものがあるにもかかわらず、思つた程数において多くの女性の名前のなかつたのは4回だけでゆくには未だ難しい社会状況であるのだろ。

終戦直後のあの頃は美術の世界だけでなくどのジャンルでも女性が頭の重しを取り除かれた嬉しさでどんどん仕事をやり始め、ハシヤギ過ぎの感じもなくなつたが、女性側からみれば生活の厳しさはあっても将来に望みを持つことが出来たベル・エポックでもあるのだ。

それに当時は女性の活躍の場が今程広くはなくて女の絵描きの活躍が新聞種になつたりして今よりも目立つた存在でもあつた様に思ふが、今日の方がずっと普遍化されたとも言えるだろう。

女流画家などと頭に余計なものがくつついでいるのは不満だが、そのうちに女流の二字が取れてただの画家になる時代も来るであろうことを願つてゐるが、この頃の社会の逆もどり現象をみてると果してそうなるのだろうかの不安も心の隅から払いのけることが出来ないでいる。——

（東京在住、11月個展のため来札）

会員・会友住所呼称変更と転居
水野スマミ子 平区西岡4条4丁目168、住岡マソショント011(851)9
見晴町372、T0134(62)5259
大森亮三 北山窓一 区南13条西13丁目、T011(5)4183
寺崎源治 区西岡4条9丁目343/8 森福岡幸一 T0061(21)札幌市中央区南区澄川5条3丁目、実A、T木村まさき T0138(55)5475
長道町149、中央マンション、渡谷正己 旭川市東鷹栖東1条2丁目、T0166(57)301
市南区澄川5条4丁目、T011(841)5671
市南区澄川5条4丁目、T011(841)5671
福岡幸一 T0061(21)札幌市中央区南区澄川5条4丁目、T011(841)5671
木村まさき T0138(55)5475
長道町149、中央マンション、渡谷正己 旭川市東鷹栖東1条2丁目、T0166(57)301
夏山亞貴王 在パリ電話架設、山田英人 町字一己2122、曙団地教職員共済住宅 T01642(2)3
岡沼淳一 町共栄台東10丁目8、T011552(31)2229
伊藤俊子 濱田英樹 伊藤俊子 T00404函館市中央区月寒東3条4丁目5/30、T011(851)1673
手稲西野4条9丁目285/32 町5~20、T0138(27)13
T011(661)6138 濱田英樹 T00404函館市中央区南6条西21丁目、T011(5)67
西村貴久子 央区南2条西22丁目、T011(611)0078
久守昭嘉 平区清田135~500

わが思索と行動



私は俳句をはじめてから三十年を経て、所属する雑誌の廃刊を機に版画に専念した。私の版画作品はいわば俳句からの転向でもある。それゆえ俳句のことなどとり入れて、求められた課題「わが思索と行動」のテーマに近づけたいと思う。

俳句も文字の一つであり、いかに短かくとも文字を通すという表現手法は、時間の中の思考作用で、鑑賞もその意味ある言葉、概念の媒体を通してなされる、間接表現であり間接鑑賞形態である。これに対し空間表現としての美術は、感覚を通しての直接の表現と鑑賞形式である。したがって課題の説明ということも、美術の場合には、作家としては至難なことである。たと

俳句と版画から

—その空間性と 時間性—

一 原 有 德



えしてみても大方は自画自讃になるのが才子である。私が画題を符号にするのもこのためである。

本来の抽象ということでは、文学の中でもとりわけ俳句の最も特色とするところである。時間芸術の文学の中で、最も短かい表現形式の俳句、短かいいえ極力説明にならざる用語を省き、いわんとすることを感じさせる文字を並べる。思いを直接の言葉で示されないで、それに代る概念の文字をもつてする象徴という手法が多くとり入れられる。自然と符号的になり、俳句が空間詩といわれるるのはそのせいである。

を内に藏し、長篇は文章の流れに示されてゆくとでもいえようか。これら表現のよりどころは、作家の個性に結合したとき、それぞれ優れた作品が生れるものと思う。

時間芸術の中の空間性というから、空間芸術の美術の中の時間性ということもいふのでないかと思う。それはいわゆる抽象具象を対立させた概念の中に見出されるよう思う。いつぞや伏木田さんの個展会場で話しあった中で感じたことである。私自身山の仲間のために山の版画もするが、具体物が入ることは気になつて仕様がなさい。全く余技のつもりでいる。二重人格らしい。もいわれたが、その通りであるが、鑑賞の

そうして、フランス・クラインの抽象よりも力強い。そこには二重人格などと思わせられるものは何も感じられない。マーク・トビーもよいが、ここには二重人格を感じられ、私は抽象作品を格段によいと思う。概念というものは、あくまで概念でありまいで、ああでもありこうでもあるので良いのではないだろうか。二重人格でもよいが、私は山の版画はもっと心を入れなくてはと思うし、作品とする版画も、本来の意味の徹底した具象作品を心がけたいと思う。だが、それも繰りかえしになりそうで技術的にはフォートエッティングと、素材のマグネシウムに魅力が残っているが、そろそろ十年以上心に温めた立体に専念しようとも思う。

つまり高い次元で見るなら、モチーフだけでもテーマのない作品が非常に多いといえようである。私自身は常にあるものの描写再現ではなく、この世の中に原型のない画面を作りたいと願いながら、自然主義だといわれることが多く、結局は無意識に何かの模写を繰りかえしているのかもしれないところである。

一般に具象、抽象という言葉が使用されるが、非常にあいまいな概念である。対立させた概念になつてゐるが、厳密には抽象の反対概念は捨象であつて、エキスを抽象して来て、マニエリズムという言葉があるようすに、具象化されることが、文学美術を問わざ制作上の過程にあると思う。

名詞のみによる作品は、俳句表現の極限を示す好例である。これに比べ長い短歌は、象徴よりも調べを利用して感情を伝える詩唱的手法が特色とする。では、小説体とおると、より以上に短歌的要素が加わるものかと、いうとそうではないと思う。私を引きあいにして申しわけないが、俳句から版画への思考を通して来た中で、どうしても長い文章表現にしたく、短篇にしたところ、中野美代子女史から「空間思考」との評があつた。以来他の作品を見るにつれ評がついたことは、短篇は俳句的で、長篇は短歌に通じるものと、女史についても、一冊になつた「海燕」は、長いが短歌要素の作品と思つた。端的にいって、短篇はテーマ

方にも正直いってそれがある。二つの概念にかかわらず、客観的にうまい作品よりも個性的な作品にひかれるが、中で主観的に好きな作品といえば、全道展には八木さんと伏木田さんがあげられる。対立概念からはたしかに奇妙であろうが、現代のミニエリスム化ということからすれば、お二人とも徹底して区別がないと私は思う。

伏木田さんの中にいる人物など意味ある具体物は、それを通して別の感覚を生ましめる、間接媒体の作用があり、一つの抒情的時間性とでもいうのがあると私は見るのである。かつて、八木さんの個展会場で八木さんは誰かにいった、「私のは具象、家内のは抽象です」と説明されたジョークの逆

方にも正直いってそれがある。二つの概念にかかるわらず、客観的にうまい作品よりも個性的な作品にひかれるが、中で主観的に好きな作品といえば、全道展には八木さんと伏木田さんがあげられる。対立概念からはたしかに奇妙であろうが、現代のミニエリスム化ということからすれば、お二人とも徹底して区別がないと私は思う。

伏木田さんはの中にいる人物など意味ある具体物は、それを通して別の感覚を生まれる、間接媒体の作用があり、一つの抒情的時間性とでもいうのがあると私は見るのである。かつて、八木さんの個展会場で八木さんは誰かにいった、「私のは具象、家内のは抽象です」と説明されたジョークの逆説が、いま真実となつて伝わる思いである。伏木田さんはこの間接媒体を入れぬと表現が定着しないものと思う。文学同様個性的にしからしめるものといえないだろうか。

これで思い出されるのは、伏木田さんと似通つて別の魅力のあるデ・クリンギングである。あのゲロリとした眼、骨ばった姿態、だが三〇〇号の大作には人体を感じさせるものはなくなっている。また小品や版画にも具体物ではなく、カリグラ�的でもある。トビーもよいが、ここには二重人格が感じられ、私は抽象作品を格段によいと思う。

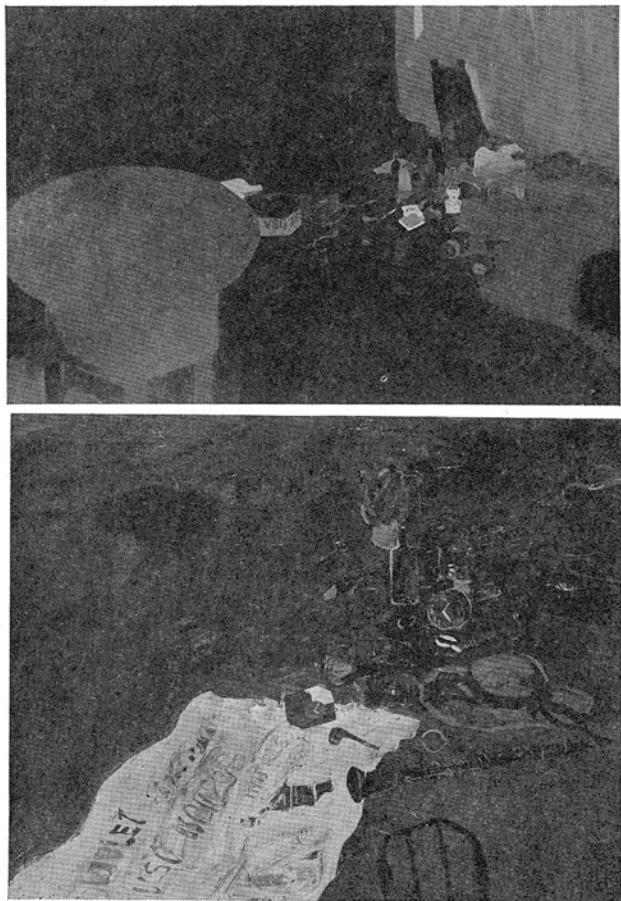
概念というものは、あくまで概念であまい、ああでもありこうでもあるので良いのではないだろうか。二重人格でもよいが、私は山の版画はもつと心を入れなくてはと思うし、作品とする版画も、本来の意味の徹底した具象作品を心がけたいと思う。だが、それも繰りかえしなりそうで技術的にはフォートエッティングと、素材のマグネシームに魅力が残つてゐるが、そろそろ十年以上心に温めた立体に専念しよ

静かに燃える虚飾のない画家

—全道展作家探訪—(1)

神田一明会員

岸本裕躬



上 丸テーブルのある静物
下 クラリネットのある静物

べったりと地を這う水平と遠近の思考
説明的事象を現わさぬ静止の思考
——十勝平野

前者は神田一明氏の故郷であり、後者は現住居を取り囲み野草しげる高台である。

四〇歳を過ぎてふと立停り、自分の物思

心や画面の内容を見えた時に判然として驚

く事の一つは、過去の細い糸をたぐり寄せて

見た時、それは何と幻であつたはずの幼少年

期の苦渋と、そして遺憾ない心情とに合致す

ることである。

「僕のすべてが、幼時体験に源を発してい

ると思えてならない。」と口まで届く前髪を

カキ上げながら重い視線をテーブルに落す彼

である。如何なる幼時体験であったのかは知
るよしもないが、いずれにせよ、その残像は
創成期の薄肌に刺つたトゲと烙印であつたら
うことは間違いないし、それが彼を画家に向
わしめ、彼の育つた風土が生涯の人格根底を
決定させ、思考作用の質を形成させたものと
思われるのである。

彼は私より三年人生経験が多い。そして、
理智に秀で思慮深く、身体も強固である。し

かし、その人柄から発せられる言葉は鈍重で

泥味を帯びてはいるがその余韻には、思索の

起伏を経た心の遍歴によるインテリジェンス

が響いてくる。彼はこの知識人たる権威とは

なく、現時点に立つての人生経験と熟慮に裏

打ちされた人生観の中で筆を持ち、その基盤

が、彼なりに師からの修得もあつたであろう
が、師の方向に馴染めず、都美術館で見た泥
臭いヒューマニズムの熱氣漂う行動展を見て
感銘し、お繕立コースより一人別れを告げて
独自の道を選んだのである。

——ある上京の折り、めし屋を搜して二人
で芸大の裏小路あたりを歩いたが、美術館に
戻り彼の作品の前をさりげなく通り過ぎた
時、「……俺にアカデミックなものがあると
思うかい」と、物憂げにしかも用心深げに
たずねたものである。

要するに、彼が重きを置き目指す所の姿勢
は、自己の外殻を埋めて築く出世主義者では
なく、現時点に立つての人生経験と熟慮に裏
打ちされた人生観の中で筆を持ち、その基盤

祝 ZEN 発刊・祝 ZEN 発刊・祝 ZEN 発刊

札幌時計台ギャラリー

—洋画材料専門の店—

OAK画材札幌市中央区北1西3仲通
TEL 261-8971**holbein アーチストピグメント**

(ホルベイン専門家用顔料)

あなたの手で、油彩画、フレスコ画
テンペラ、日本画、水彩等の古典画法
を再現できます。

—詳しくは最寄りの画材店で—

ホルベイン工業株式会社

北海道地区総代理店㈱布川

洋画材料**大丸藤井
セントラル**

札幌・南1西3

に立って、眞実を必死に求め捜しあぐねること、内嚙を埋めて格闘を続けるさ迷い人として、静かに燃える虚飾のない画家としての自分を全うしているよう見えてくるのである。

作品の方法に於ても、意味ありげな大仰で独善的な押しつけがましい結論的な絵は好みない。彼の画面に出て来るモチーフや状況は、何事もなかつたかのような室内であったり、さりげない風景であつたりする。「人の顔」や物独自の特徴を誇示して描けば描くほど彼の意は搔き消されてしまうのかもしれない。だから、部屋に坐り、道端に佇まず、「生」による「己」が肉眼を通して感受するこの空間に、悶々たる思索を投影しようとする



ば、これ等の対象物が意に反して自律性を持ち、意味性が発酵増殖し出すのでは困るのである。己の心情が充満定着して支配し尽してくれるモチーフと状況でなければならぬ。そして、あえて生き生きとした生きザマの苦悶らしさを避ける彼の画面では、苦悶の末の残跡と人の呼吸による空間が生れ、「人の顔」以上に強い実在感を伴つて、「己」も詩情的な色や形として出現してほしいのである。

こうしてみると、いさか抽象画で事足りる論理にもなるのだが、彼はかたくなに、「平らな色面に空間感はあっても、眞の絵画空間とは思えない、物の遠近、量感あつての空間なのだが……。」と言つて黙する。

彼の作品は、沈黙に紹てが秘められてゐる。溺死しそうな青と青紫であるし、頑強なマチエールの中には、リリシズムと繊細な心理のヒダが停止している。そして、人間のいない人間凝視がじっとこちらを向いている。この制抑のきいた無言の語りかけは、文学性を極度に排し切つてゐるだけに、造形言語としての強さで深度を増す。

そして彼は、今後もこの心情込めた空間を飽く事なく描き続けることだろう。
「絵画はやっぱり空間が命なのだと思う。

水墨画や浮世絵の空間として認めがたいのだよ。俺は西洋かぶれなかんな……。」

確かに東洋画は余韻や暗示的に見させる点で観者にまかせるが、西洋画では、隅一点点で実証的な合理さで作者が消化し尽す。しかし、主張の断定は嫌う。核心の囲りを堂々めぐりしながら執拗に核心に接近しようと造形に骨身をけずるのである。

彼と私を含め、四〇代に共通して言える事の一つとして、不思議と何やらどこか、うつろな虚無感が漂い出すことに時々気付くことである。それは疎外孤立と排他的絶望による獨白でないとしても、その何者かなのだ。現世人間存在に対する失望と自信のなさから来るのか、それとも立ち向う劍を持ち得ない年代だからなのかもしれない。あまり独白的嘆きに墮しすぎではないか、もっと希望を提示できる哲学と美学がないものだろうかと考えたく思う。だが、孤立的吐露でありながらも伝統的価値や魂の普遍性を脇にかかえて進んではいるのである。

彼は、夏の或る日、高校野球の優勝シーンをテレビで見て感涙し、中学生の娘に笑われたと言う。

公募出品規約の一部が改正されます

第34回展（昭和五十四年度）から絵画部門の搬入作品の大きさについて次のようになります。
搬入作品の大きさ、点数に制限がなかったのは従来通りだが、うち一点は必ず六〇号以下であることを改正されます。
搬入作品の場合は六〇号以下であること、また二点以上搬入の場合はそのうち一点は必ず六〇号以下の作品を含むこと。
たとえば一点だけ搬入の場合は六〇号以下であること、また二点以上搬入の場合はそのうち一点は必ず六〇号以下の作品を含むこと。

全道美術協会・北海道新聞社

祝 ZEN 発刊・祝 ZEN 発刊・祝 ZEN 発刊

印刷の美を、私達は考えます。



中西印刷株式会社

札幌市東区東苗穂町505番地 011(781)7501

三菱鉛筆

デザインアザイン
良い物を製品



株式会社

松山額縁店

札幌市狸小路5丁目 TEL(011)251-9000



第33回 全道展をみて

八木 伸子

全道展の本展の審査には殆んど出る機会がありませんで、今回ようやくマジメに三日間休まず見せて頂きました。

ただ、もう半年近くたった今、「作品の感想を」ということで、正直、一寸困っています。良い絵も沢山あった筈なのに、会員

会友の作品は目に浮ぶのですが、一般の方達のがあまり印象に無いのはどうしたことでしょう。強烈に自己を主張する作品が、案外少なかったのでしょうか。

今、迷わず思い出すのは、協会賞戸次正義氏、「軍鶏—死」の達筆、「これから大変だなあ」とも思いますが、男らしく力で乗り切って行く人でしょう。

いづこの公募展でも女性の活躍が目立ちますが、全道展でも、教育長賞砂田陽子さん、「黒の構図」の明快な切れ味。奨励賞長尾宇多子さんの描きこんだ「静物」。共に才能を感じました。

同じく奨励賞門馬よ宇子さん「春」。年輩のご婦人と思えぬ初々しい写生態度にハッとさせられます。審査の時、「弱い人々」という声も聞きましたが、永年泥沼に足をつっこんで描いている私には、こういう作品に魅力があります。

又賞にならなかつたけれど、加藤博司氏「雨上り（街角）」のモノクロームの作品も好きでした。

考えて見ると、落選した作品にも「惜しいなあ」と思ったことが何回かあったことを、つけ加えておきます。

原稿用紙を前にして、何日も考えている。文章を書く事は、最大の難事である。
第三回展の圖録に版画部門の会員が、簡にして明なる所感を載せているので読まれたと思う。
過日、ある先生との会話で
「最近の版画はみんな上手になつたね!! 然し味がないね!!」と言われた。

上手になったと言うのは技術の向上、味がないと言うのは作者の個性の主張とか独立性。内容が濃くなることを指しているのであります。版画も絵画のジャンルの中にあるので内容が問題である。

見る人に、なにかを訴える。戦いの跡がみえる作品であつてほしい。油絵、彫刻、工芸等、いずれもそれぞれに技術を必要とするであろう、だが版画のように、彫りが悪いとか、摺りが良いとか、技術的な事を重大な要素とするのも、日本的事意識によるものか。技術が並行していなければ充分な作品が出来ないことはいうまでもないが、あまり技術的創作に腐心することはさけなければならないと思ふ。先人が発明した数多くの遺産を研究し継承することこそ大切である。

過日私は石版を描いている時、ニイドルで細い線を出す方法を思いつき、満足していたが、後日、藤田嗣治の、一九二三年作の石版『猫』をみて驚いた。猫の耳から体にかけて、こまかいニイドルの線でおおわれているのである。一九二三年は私の生れた年なのである。

尾崎 志郎

福井 正治

砂田陽子の「黒の構図」。数多くの作品を

みて、この人の作品が目の前にあらわれるとホッと救われたような気持になりました。清楚なリリシズムが感ぜられました。戸次正義の「軍鶏」はこれ迄の自画像を採り入れた作品とは凡そ異った作風で、自己の今迄の作風をガラリ変えるということは並大抵な事ではないだけに敬意を表するものです。

工藤善藏の作品は、色が饒舌すぎる嫌いはありませんでしたが、筆で描く作家が少なくなつてゐる傾向の中でこの体质の仕事は大切だと思いました。併し今一つ整理が欲しい。小野司の「赤の群像」はあの描線がマンネリ化しないことを希みたいのです。平塚昭夫の地味で魅力のある色感や多田襄の何れも人間を扱つた作品は一見魅力がありますが、近寄つてみると今一步突込みが足りないのが残念でした。成田泰明の作品を旭川の二人展でみた時は感心したのですが公募展に出品が全く変つているのはどうしたことでしょう。二人展の時の作品が魅力があつただけに残念でした。

——一次の審査が終り、出品の全作品を見た後に残る言い知れぬ虚脱感——それはここ何年か、これぞ胸を打ちのめすようなヒット作がないことです。どの作品も表面に出でている偽りの粋いのよなものが作品のカゲをうめる。下手でも良いではないか。技術等は表現の後からくるものだ。先行してはいけない。槐太の様に「——汝のガランスを出しつくせ。汝のガランスを一本にしほれ。——」私自身をも含めての警句です。



砂田 陽子

全道美術協会展に出品し始めて、年月もそう長い力ではありません。従つて、この会の風潮や様相などは、まだ分っているとはいえない。今は、賞など頂き、嬉しい限りです。反面、自分が、私自身を疎外し始めているようで、懷疑的心境になります。とにかく、まだまだ力不足の点が、ぬましいを感じる程沢山ありますので、その一つを克服しようとすると、気の遠くなるような年月が費いやすれそで作画する、となると沉迷を来たし、手順さえ分らなくなる場合が多いのです。私は、むしろ作前の写生を、そのままの前、純朴な物理的労作一本を切ったり、棒に張ったり、絵具のこぬものを作ったりの方が、心楽しくなるだけに、好きなのです。

作画には混乱させられることが、多いのですが、次のことだけは、一貫して避けるようにしています。絵の題名が、文学的ニュアンスを帯びること。又、作画の契机が、無目的な受験生に似ること。「つまり、公募展の期日に迫られての、いわば公募展のための絵ではなく“L'art pour l'art”ならぬ、絵のための絵を、造ろうと心がけています。



小野 司

美を感じたら表現したくなるものだと思う。なかなか毎日美を感じることはない。美を感じるために、絵筆を持ち、表現することの方が多い。表現しているうちに、美を感じることがある。それは、ほんのではないだろう。まず美を感じること、美を感じたら表現したくなる。表現しなくなったらその方法を考えればよいのだ。感じたものと表現の技法が結びついたり確信をもって表現する。この順序が大切なのだ。ともすると、描かなければいけない焦りが先きに立ち、技法が優先し、そのあとを追うよう感じたものがやってくる。するとつくる絵になってしまふ。

感じたものが高く豊かであれば、きっと表現の欲求が強くなり、表現の欲求が強くなければ、表現の技法にまつわるいろいろな障害や困難なことは、必ず押しきつて行けるものだと思う。表現の技法で行きづまるのは、感じた美の貧困さによるものだといつも思つてゐる。技法の未熟さをなく前に感性の貧困さをなげくべきなのだ。しかし、このことの難しさよ……。

全道展の作品は、いつも、迷いと断定の連続の産物なのだ。

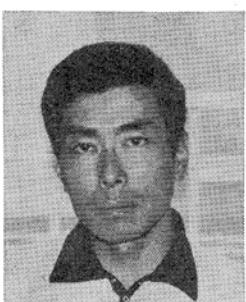


四次 正義

A様
今、僕は、四年前貴殿と旅した時を思い出しています。バルセロナのホテルで、貴殿はガウディのサグラダ・ファミリアのミニエリスムについて、又、マドリードで観たボッシュのことを、夜通し話してくださいました。僕にとって、貴殿のユニークな発想に基づいた話の展開は驚きであり、全く新鮮でありました。一種異様で神秘的で不思議をもって表現する。この順序が可解な貴殿の話にひきずり込まれたものでした。

そして貴殿は「若者はパンチのある絵を描かなくてはダメだ！」とも言われました。旅している間、新しい、全く新しいイメージの湧きあがってくるのを、おさえる事ができませんでした。

「絵を描くってこんな事なんだな」と感じたのはその時ははじめてのことです。



羽山 準

かつて私は、「全道展」も「道展」も区別つかず、ただやみくもに「これが北海道で一番権威の高い、トップレベルの芸術」とだけ胸におさめエレベーターに乗ったもので、中学卒業後は高校に通い出してから、「全道展」というものと、「道展」はちがうものだったのかとパンフレットを買える年頃になつて気がつくおそれまで、その頃は水彩で何とかあの油絵のネバネバとした感じを出したく、自分なりに工夫して、とにかく作品が仕上がりでした。

やつとのことで、会友に推薦され、何人かの先輩諸氏を知り別れたあとはいつも「もっと描かねば」の念がいつも吹き上げ、そのうしろからゆっくりと「何といいものであろう」とつくづく身にしみて、「全道……」と目に入ると、あの時の祈る気持ちが反射的に頭をもたげ、ピックと緊張しどおりの今日この頃です。

一気に三枚描きあげた時「二十九回全道展公募」が目にありました。今でも自分の絵に自信の持てない僕が「早く他人に見てもらいたい」と思うことがあります。

今でも自分の絵に自信の持てない僕が「早く他人に見てもらいたい」と思っている始末で、今思ひ返しても、あのことをはじめて、もうそのまゝはじめてのことです。

以来、今年で全道展に出品して5年経ちました。「若者は強烈でなくてはならない！」という貴殿の言葉を表面的にしか理解できないからでしょう。

僕はいつまでもへたくそのままです。でも「創造する者にとって、時は、一期一会」という貴殿の言葉をかみしめ、描き続けたいと思います。

昭和五十三年十一月二十二日夜
羽山 準

た時は大仕事を一つやり終えた充実感でいっぱい、食べ盛りの年頃にも似合はず、気がついた時は、食事もないでいる始末で、今思ひ返しても、あの全身を包むほりがいとおしく、あの喰煙中できるものといえばこんなことと、映画とビートルズで学業はサッパリでした。

大学を卒業すると、しばらく職が無くて半年おかれ、ようやく教員採用の通知が来たのは後志、赤井川の避地二级で、それでもワラをもつかむ気持が先に立ちそれにとびつき、「三年も自炊し暮していると、いくら私が動物好きでも、同居の犬や猫や果ては蜘蛛では話し合手にはつまらなくて、ましてや制作の悩みなどおかもいなしで、とにかく、人恋しくて、思い切って公募展に出品することにし、出品となれば「全道展」と頭から思い込み、それはその頃、鶴川、野本、神田さん方の絵が好きでよく見に行っていたし、何よりもキビシガが一番ありそうで、この壁に何時かは私の作品がかかるれば、魅力ある新たな人の交わりが出来そうで出品し搬入を終えたあとは、あまり特徴はないがっかりとした「全道展」のレタリングに祈る気持ちでいっぱいでした。

お知らせ

第34回全道展は8月に開催

道立近代美術館
SCHEDULE

- 12月20日(水)～24日(日)
北海道創玄会員会友展
- 1月5日(金)～2月10日(土)
子どもと親の美術館'79
- 1月5日(金)～1月10日(木)
北海道教職員美術展
- 1月12日(金)～1月21日(日)
カナダ、アルバータ現代美術展
- 1月25日(木)～2月10日(土)
第2回北海道現代美術展
- 2月15日(木)～2月25日(日)
第1回ジャパンエンバ美術コンクール
- 3月3日(土)～3月25日(日)
片岡鞠子展
- 4月1日(日)～4月22日(日)
救世熱海美術館名品展

ZEN

- 第21回学生美術全道展は8月30日(木)～9月4日(火)、札幌市内井で開催します。
- 全道展企画展は昭和54年度、2期に分けて札幌大同ギャラリーで開催されます。内容、会期は未定。
- 全道展新年会を1月13日(土)に恒例の全道展新年会を1月13日(土)午後6時から開催します。会場は札幌市中央

- 部が改正され、応募作品のうち一点は必ず60号以下の作品を含めることになります。
- 第21回学生美術全道展は8月30日(木)～9月4日(火)、札幌市内井で開催します。
- 全道展企画展は昭和54年度、2期に分けて札幌大同ギャラリーで開催されます。内容、会期は未定。
- 全道展新年会を1月13日(土)に恒例の全道展新年会を1月13日(土)午後6時から開催します。会場は札幌市中央

区南5西2、ホテルスタッセ9階、会費は4000円です。出席希望の方は事務局まで申し込みを。

全道展目録の残部があります

- 必要な方は、代金同封の上、全道展事務局まで申し込みください。郵送料は本会で負担します。
- 30周年記念全道展画集 昭和50年度 ¥1000

- 30周年記念全道展画集 昭和50年度 ¥1000
- 年記念座談会／全道展昨日・今日・明日。内容／30周年記念展を迎えて／岩船修三。全道展そのなりたち／本田明二。30周年記念座談会／全道展昨日・今日・明日。

- 潶巻きおこすべし／荒巻義雄。物故作家追悼／岡部文之助、居串佳一、伊藤信夫、上野山清貢、寺島春雄、神田日勝、国井澄、田辺三重松、川上澄生、菊地精二、前田政雄、宮下貞一郎、山内壯夫。アトリエ訪問／谷口一芳、神田一明、三箇三郎、谷内丞、諫訪田勝衛、小川マリ。隨筆／会員からの絵はがき。会員会友入選作品写真集。30周

- 年記念全道展出品目録。全道美術協会小史。会員会友入選者住所録。

- 第31回展目録 昭和51年度 ¥800
- 年記念全道展出品目録。全道美術協会小史。会員会友入選者住所録。

- 年記念全道展出品目録。全道美術協会小史。会員会友入選者住所録。
- 第32回展目録 売切れ。

第33回展目録

昭和53年度 ¥700

〈内容〉解体新書／米坂ヒデノリ。神々の余白／八木保次。巴里雑感／高野次郎。

檀一雄の憶い出／福井正治。アトリエ訪問／鵜川五郎、岸葉子、山本一也、大友一夫

渋谷栄一。会員隨想／ペルチザンの日、私

の散歩道。会員会友受賞作品写真集。31回

展示品目録。全道美術協会小史。会員会友

消
息

● 本郷新会員、昭和53年度北海道文化賞を受賞されました。

- 砂田友治会員、頸下腺、耳下腺肥大的ため10月中旬から、札幌医大附属病院耳鼻科11号室（札幌市中央区南1西16）で入院加療中です。
- 八木保次、伸子夫妻、札幌宮の森につかり落ち着き、伸子さんは時折り東京のアトリエに行かれるそうです。
- 野本醇会員のご尊父、12月1日に逝去されました。つつしんでお悔み申しあげま

1979全道展新年会

日時 1月13日(土)午後6時より
会場 ホテルスタッセ9F
会費 4000円
T 011(661)0673まで

● 申し込み先 全道展事務局／063札幌市西区発寒4条5丁目434～8、竹内豊方、T 011(851)9141、内232、(夜間、休日)(661)0673

募
集

33回展出品目録。会員会友入選者住所録。